

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年1月29日

協議会名: 安曇野市地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>南安タクシー(有) 安曇観光タクシー(株) あづみの第一交通(株)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あづみん」区域型運行。</li> <li>・地域間幹線系統路線に接続する7系統を運行。</li> <li>・車両減価償却費国庫補助金(南安タクシー(有)3台、安曇観光タクシー(株)1台)を受給。</li> </ul>	<p>網形成計画の中間評価を兼ねて実施した利用者アンケート(R2.3月実施、65歳以上の市民1,350人対象、有効回答499件)より、高齢者の約8割が今後もあづみんを利用する、または利用したいと考えていることが分かった。一方で、あづみんの課題(予約が取りづらい、休日運行がない、区域を超える場合乗り換えが必要など)が改めて浮き彫りになった。</p> <p>また、あづみんの予約断り件数は、106件/月(H31.4月からR1.9月の月平均件数)から84件(R1.10月からR2.9月の月平均件数)へと減少傾向にあることが分かった。</p> <p>こうした調査結果を受け、あづみんの充実、具体的には、車両数の充実、区域をまたぐ運行の導入、休日運行など、利用者のニーズに沿ったサービス向上に向けた検討を開始した。</p>	<p>A</p> <p>当初の計画通り事業を実施することができた。</p>	<p>C</p> <p>年間目標利用者数を86,700人に設定していたが、R2年度の実績は、年間利用者数79,113人、日平均利用者数328.3人であり、目標達成には至らなかった。</p> <p>未達成の要因の一つとして、コロナ禍による利用者の外出控えが考えられる。R2年3月以降、前年度同月利用者数に対して今年度月間利用者数が下回る傾向が続いている。</p> <p>特に、県下に緊急事態宣言が発令された5月の利用者の落ち込みは顕著で、前年同月比73.7%の利用者数であった。</p> <p>感染拡大防止のため、協議会としても、1台あたりの乗車人数を制限して運行を行ったこともあり、利用者数が伸び悩む結果となった。</p>	<p>コロナ禍の影響により減少した利用者をコロナ禍前の水準に戻すにはどの程度の期間が必要か不明である。感染拡大防止のため、運行事業者においては、運行車両への仕切りカーテン設置、定期的な換気及びアルコール消毒、乗務員のマスク着用を実施している。また、利用者には、乗車時のアルコール消毒、車内でのマスク着用、座席の間隔を空けた着席、体調不良時の利用自粛を呼び掛けている。</p> <p>上記の日常的な対策に加え、市内での感染者が増加した際には予約受付数を制限するなどの対応を講じることで、コロナ禍においても安心して利用いただけるよう引き続き対応していきたい。</p> <p>こうした状況を踏まえ、単に利用者数の増減のみを見るのではなく、あづみんのサービス向上を図ることで利用者の確保、維持に努めたい。現在行っている網形成計画の中間評価を受け、あづみんサービスの充実に向けた検討を行う。具体的には、左記③に記載した通り。</p> <p>R2年3月、高齢者を対象にあづみん利用を促すダイレクトメールを送付したところ、800人を超える新規利用登録があった。今すぐではないが、将来的にあづみんの利用を希望する市民がいることが改めて確認できた。</p>

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和2年1月29日

協議会名:	安曇野市地域公共交通協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>安曇野市は長野県中央部西側に位置し、人口は約9万7千人、面積は約332km<sup>2</sup>で、平成17年10月に5町村が対等合併して誕生した市である。北アルプスの山岳地帯と山間部及び平たん部から構成されている。人口は減少傾向が続いており、平成28年1月時点と比べると約1,300人減少している。また、市全体人口に対する65歳以上が占める割合は約3割となっており、全国の多くの自治体同様、本市においても高齢化が進行している。</p> <p>当協議会では、本市の地域性を踏まえ、市全域でデマンド型乗合タクシー「あづみん」(以下「あづみん」と言う。)の運行を行っており、日中は高齢者・障がい者を中心として医療機関等への通院や買い物、福祉施設への移動手段を確保している。また、あづみんの運行前後の時間帯には、市外へ至る重要な公共交通であるJRの2路線間を結ぶ定時定路線を運行し、通勤・通学者の移動手段の確保を図っており、生活交通ネットワークを構築しているところである。</p> <p>当市では、平成30年6月に市地域公共交通網形成計画を策定し、「あづみん」を中心とした日中の生活交通の維持、充実及び朝夕の通勤、通学のための移動手段を確保している。特に「あづみん」については、運行の一部見直しを行うことで利用者の利便性向上や予約の断り件数を減らすことに取り組んでいる。「あづみん」は平成19年10月の本格導入から14年目を迎え、高齢者、障がい者をはじめとする交通弱者の足として定着しているが、今後予想される高齢化の進行及び自動車免許自主返納者の増加により、公共交通としての必要性はより一層増していくと考えられる。ドアtoドアというサービスレベルの高さを広く周知することで利用者確保し、市民の暮らし、生活を支える“足”となる持続可能な交通体系の維持、確保につなげたい。</p>